

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Comparative Analyses : Results : Religion 4200

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 寺田, 勇文 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003697

宗 教 4200

寺 田 勇 文*

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. <大宗教>について | 3. <巨石制>にかかわる問題 |
| 2. シャーマンの類型と分布 | |

東南アジア・オセアニアの237民族を対象とする本研究では、「宗教」にかかわる文化要素として、16の小項目が用意されている。それらは、複数魂（4201）、穀物魂（4202）、職業的祭司（4203）、脱魂型シャーマン（4204）、憑依型シャーマン（4205）、鳥占い（4206）、内臓占い（4207）、人身供犠（4208）、牛類供犠（4209）、トーテム的禁殺・禁食（4210）、勲功祭宴（4211）、巨石記念物（4212）、上座部仏教（4213）、イスラム（4214）、首狩り（4215）、食人俗（4216）である。

この宗教の項目については、山下による中間総括的な報告がある[山下 1985:103-107]。ここではそれを参照しつつ、いわゆる<大宗教>の問題、シャーマンの類型と分布の問題、巨石記念物を主軸とするいわゆる<巨石制>にかかわる問題を検討することにする。

1. <大宗教>について

<大宗教>としては上座部仏教（4213）とイスラム（4214）の二つがとりあげられている。まず、上座部仏教をもつ民族として13例があり、そのうち2例は東南アジア島嶼部のジャワ島（Javanese）とロンボク島（Sasak）に分布しているが、それ以外は予想通り東南アジア大陸部とくに中国南部の雲南からビルマ、タイ、インドシナにかけてみられる。利用した資料の問題とおもわれるが、Siamese が上座部仏教を有する民族に数えられていないのはおかしい。

つぎに、イスラムについては36例が報告されており、その大部分はマレーシアとイ

* 上智大学外国語学部

インドネシアさらにフィリピン南部にかけて分布する。東南アジア大陸部におけるイスラムは5例 (Burmese, White Tai, Siamese, Cambodian, Cham) が報告されている。このうち Cambodian と Cham についてはチャンパとの関係で、また Siamese についてはパタニ戦役後に捕虜としてバンコックに移住を余儀なくされたマレー人ムスリムとの関係で説明がつくであろうか。White Tai がイスラムをもつという点は、中国南部のイスラムの影響が考えられる。

上座部仏教とイスラムとをあわせもつ民族は、わずかに2例 (Javanese, Sasak) にとどまる。また、予想通りの結果として、オセアニアには上座部仏教もイスラムも分布しないことが確認されている。もっともフィジーのインド系社会においては現在5万人近くのムスリムが定住していることを考慮すれば、将来のこうした文化要素の比較研究においては、すでに数世代を経過した移民グループについても対象民族として取り扱うことが必要とおもわれる。

つぎに、〈大宗教〉と他の文化要素とのクロス分析については、さきに山下が試みたように、報告者もイスラム(4214)とブタ飼育(1321)の有無、上座部仏教(4213)と牛類供犠(4209)の有無との関係をチェックした。まず、ブタを飼育する民族はじつに174例(全体の73.4%)が数えられているにもかかわらず、東南アジア島嶼部を中心としたイスラム文化圏では数例が報告されているにとどまる。イスラムとブタ飼育をあわせもつ民族は東南アジア島嶼部ではわずか2例 (Javanese, Sasak) だけである。それ以外の中国南部、フィリピン、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアのほぼ全域でかなり均一にブタの飼育が確認されていることを考慮すると、イスラム文化におけるブタを忌避するイデオロギーとブタ飼育の有無とは一定の関係性をもつといえるかもしれない。

つぎに上座部仏教と牛類供犠とのクロスの結果をみてみよう。牛類供犠をもつ民族は68例(全体の28.7%)あり、そのほぼすべてが東南アジアに分布している。上座部仏教と牛類供犠とをあわせもつのは、そのうちの5例 (Cambodian, Tai, Muong, Sasak, Pulang) である。上座部仏教の多数を構成する民族の一つである Burmese 等においては牛類供犠がみられないのであるが、こうした結果を上座部仏教の忌避イデオロギーとの関係のみで即断することには、現在の資料上では問題が残ろう。

〈大宗教〉の小項目にかかわる問題点としては、上座部仏教とイスラム以外に、ヒンズー、大乘仏教、キリスト教(カトリックとプロテスタントにわけて)の小項目を設定することがのぞましかった。

2. シャーマンの類型と分布

近年のシャーマニズム研究では、超自然的存在との関係の様態をめぐって、脱魂型と憑霊型という二つのタイプのシャーマンが存在することがあきらかとなっている[佐々木 1979; 1980]。調査結果によると、脱魂型シャーマンをもつ民族は合計27例(全体の11.4%)が報告されており、中国南部とスマトラ、カリマンタン(ボルネオ)、スラウェシ(セレベス)にかけて分布する。オセアニアではわずかにオーストラリア北部に居住する Ungarinjin の1例だけである。一方の憑依型シャーマンは、脱魂型より多く67例(全体の28.3%)となっている。その分布は、しいていえば中国南部とフィリピン、スラウェシ、さらにオセアニアに多いといえるかもしれない。脱魂型と憑依型の両方を有する民族は6例(Yami, 四川 Miao, Waropen, Bugis, Nu, Makassarese)のみとなっているが、両者の型が混在する地域としては、とくに中国南部が注目される。全体として脱魂型であれ憑依型であれシャーマンを有する民族は、237民族中の88例(37.1%)となる。

シャーマンあるいはシャーマン的な呪術宗教職能者は、個別の民族誌においては祭司、託宣師、預言者、霊媒、呪医、治療師などというさまざまに異なる呼称で記述されているため、それらと職業的祭司との関係は明確ではない。また、大宗教が浸透している地域では、イスラムのイマームやキリスト教宣教師、仏教の僧侶などが職業的祭司の範疇にふくまれている可能性がある。集計結果では102民族(43.0%)が職業的祭司(4203)を有しており、その分布はとくに中国南部からインドシナ、タイにかけてと、オセアニアの島嶼部に顕著である。

シャーマニズムの類型に関しては、脱魂型と憑依型という分類以外にも、東南アジアに関しては岩田による山地民族型と平地民族型という二つの類型設定が試みられている[岩田 1978: 64-79]。しかし、これまでの民族誌の記述からみる限りにおいては、佐々木も指摘している通り、シャーマニズムは脱魂型と憑依型とに明確に分類されうるものではなく、両者が混在する社会、民族も少なくない。したがって脱魂型と憑依型といっても、それは当該社会においてどちらの要素がより優勢であるかという問題であろう。

シャーマニズムの出現形態は、当該社会において保持されている靈魂観、宗教的世界観に大きく影響されていると考えられる。そこで、つぎに東南アジア・オセアニアにおける複数魂(4201)とシャーマンの分布および類型との相関関係の有無をみていくことにする。まず複数魂を有する民族として74例(31.2%)があげられており、そ

のうち54例が東南アジア、19例がオセアニア、1例がマダガスカルに分布している。複数魂をもつ民族は、この調査の結果からみるかぎりマレー半島をのぞいたほぼすべての地域に分布している。シャーマンとの関連では、東南アジアにおいて複数魂と脱魂型シャーマンを同時に有する民族は13例、複数魂と憑依型シャーマンとの組み合わせは19例である。オセアニアでは、複数魂と脱魂型の組み合わせは **Ungarinjin** の1例のみで、複数魂と憑依型の組み合わせは11例となる。このように複数魂とシャーマンの類型との関連では、一定の傾向はみられなかった。

3. <巨石制>にかかわる問題

大規模な石造構築物（メンヒル、ドルメン、列石、ストーン・サークルなど）を創出した文化複合をここでは<巨石制>とよぶ [cf. ハイネ＝ゲルデルン 1961]。まず、<巨石制>を構成する文化要素として、勲功祭宴（4211）、巨石記念物（4212）、首狩り（4215）の三つの分布をみていく。勲功祭宴を有する民族は25例（10.5%）、巨石記念物は38例（16.0%）、首狩りは64例（27.0%）が報告されている。しかし、これらの3要素がすべてそろっている民族は、わずかに7例（**Orang-Abung, Sumbanese, Lushai, Rengma Naga, Kelabit, Thado-Kuki, Nias**）にとどまっている。山下が指摘しているように、3要素としてまとめあげるには、事例が少なすぎるという印象をもつがどうであろうか。

これに関連して、勲功祭宴と巨石記念物の組み合わせは9例、首狩りと巨石記念物の組み合わせは15例、勲功祭宴と首狩りの組み合わせは14例という結果がでている。また勲功祭宴と牛類供犠（4209）とを合わせもつ民族は12例（勲功祭宴を有する25民族中の12例）であった。